

第1回知床国立公園カムイワッカ地区

自動車利用適正化対策連絡協議会

< 議事録 >

1. 場所：ゆめホール知床 公民館ホール

2. 日時：平成22年5月26日(水) 10:30~12:00

3. 出席者：別紙の通り

4. 議事：

- (1) 平成21年度自動車利用適正化対策の実施結果について
- (2) 平成21年度収支決算及び会計監査報告について
- (3) 平成22年度自動車利用適正化対策の方針及び実施内容について
- (4) 平成22年度収支予算(案)について
- (5) 平成23年度以降の現規制区間のマイカー規制について
- (6) その他

5. 配付資料：

- 資料1 平成21年度自動車利用適正化対策の実施結果について
- 資料2 - 1 平成21年度収支決算報告について
- 資料2 - 2 平成21年度会計監査報告について
- 資料3 平成22年度自動車利用適正化対策の対応方針及び実施内容について
- 資料4 平成22年度収支予算(案)について
- 資料5 平成23年度以降の現規制区間のマイカー規制について
- 参考資料1 平成21年度カムイワッカ地区自動車利用適正化対策現地管理連絡等業務報告書(概要版)
- 参考資料2 2009年度 利用者等動向調査の結果概要
- 参考資料3 平成22年度シャトルバス運行予定時刻表
- 参考資料4 平成22年度 周知チラシ等
- 参考資料5 平成21年度第1回知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会議事録

6. 議事概要：

(1) 開会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 野口所長

斜里町 川副副町長

(2) 議題 1 . 平成 2 1 年度自動車利用適正化対策の実施結果について

環境省：資料 1 の説明

一同：了承した

(3) 議題 2 . 平成 2 1 年度収支決算及び会計監査報告について

斜里町：資料 2 - 1、資料 2 - 2 の説明

一同：了承した

21 : 00

(4) 議題 3 . 平成 2 2 年度自動車利用適正化対策の方針及び実施内容について

環境省：資料 3 の説明

網走建設管理部：参考資料 4 チラシの中の「北海道オホーツク総合振興局網走建設管理課」と記載してあるものを「北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部」に訂正して下さい。

(5) 議題 4 . 平成 2 2 年度収支予算（案）について

斜里町：資料 4 の説明

31 : 00

観光協会・温泉旅館共同組合（上野）：昨年度、小林先生はなぜ調査を行わなかったのか。また、先生は五湖の調査を中心として行っていた。木道の延長に伴って、カムイワッカについても動きが変わってくると思う。その辺りはどのように考えているのか。

環境省：小林先生には一昨年度まで調査をお願いしていた。すでに 10 年もの調査を続けており、調査方法については確立した。その為、調査は地元を中心に行っていけばよいと考えた結果、知床財団が調査を引き継いだ。

五湖については、木道の延長やシステムが新しくなることにより、変更点が出てくる。その為、新たに調査が入ると思う。マイカー規制についても、変更があるため利用者の動向については調べる必要があると思う。

知床財団：昨年も小林先生に分析を頼んだ。質問票の作成の際には、意見を聞いた。現在、五湖の調査を行っている、庄司先生にも質問項目の作成をお願いした。知床財団は配布を行っている。協力して、調査を行っている。

観光協会・温泉旅館共同組合（上野）：客観的に作成された質問票が、知床財団が調査を行うことにより、知床財団に有利な調査項目になってしまうのではないかと懸念している。

客観的にみられるような調査を行ってほしい。

知床民宿協会：シャトルバスの運行について、混み合わない期間に関しては、バスの運行本数はほぼ半減してしまうのか。

環境省：今年度、減らした時刻の運行は、昨年度までは、自然センターから知床五湖までの便となっている。五湖の木道が延長したことに伴って、五湖の利用時間は延びたと考えられる。その為、昨年度までは、バスの運行は 20 分に 1 本であったが、40 分に 1 本のバスでも利用者には影響はないと考えている。本数にしたら、ほぼ半減となった。

知床民宿協会：バスの便数が減少したのに、22 年度の予算は減額されないのはなぜでしょうか。

環境省：運行日数は減っていない。その為、実際この日張り付いている人員の数は変わらず、費用減額とはならない。

知床民宿協会：便数については、これで決定なのでしょうか。変更の余地はあるのでしょうか。

斜里町：基本的には、この案で進めていきたい。具体的な修正、改善案があるようでしたら、意見を聞かせて下さい。

知床民宿協会：今の時点では具体的な案はない。しかし、昨年度は全便運行したにもかかわらず、前年の 75% のバス利用者であったのに、減便しても大丈夫であるのか懸念した。前もってこの資料を示していたき、何か良い案を考えたかった。

観光協会・温泉旅館共同組合（上野）：昨年度はシルバーウィークに多くの利用者がいた。今年度は、この時期に減便となっているが、何か対策等しないのか。

環境省：利用者が多い時には、臨時便を出す等の対処を行う。

知床民宿協会：効率をあげるのも大事であると思うが、利便性も大事にして欲しい。もう少し検討をしたかった。何か問題があって減便したのか。なぜ減便をすることにしたのか理由を示してほしい。

斜里バス：問題点は、利用者が減って、収入が減っているということ。採算性が危うい状態である。昨年までの状況を見ると、五湖便の利用者はほとんどいない状況である。五湖の利用時間の延長も考慮し、この運行ダイヤにした。利便性は下がったが、1 便あたりの利用者を増やすことにより、継続していきたい。

斜里町：採算面を考慮し、また、それほど利便性も落ちないと考えられる。20 分で五湖利用する方は減ってくると考えられるため、40 分間隔で問題ないと思う。斜里バスの方でもデータを取っており、過去の実績から改善案を検討した結果である。今年度はこのスケジュールで進める。

(6) 議題 5 . 平成 2 3 年度以降の現規制区間のマイカー規制について

環境省：資料 5 の説明

北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部：今年度 22 年度で完成、今までの交通規制が解除される。23 年度以降については、カムイワッカから知床大橋方面の工事費が 30 億円以上の工事費が試算されており、費用対効果が期待できないので事業化は困難という状況は変わらない。またその工事を行う場合でも地形の改変、構造物の設置等が想定され、世界遺産登録地では実施は困難と思われる。知床大橋方面については通行の安全が確保されないで通行止めを想定している。

車両の転回所の整備については、カムイワッカから大橋まで通行止めにしたことに伴い、転回所が必要になると考えている。位置や場所は関係機関と協議を続けていく予定。停車所、駐車場については今のところ設置する予定はない。停車所については通常市街地の街路事業、峠のチェーン設置所に設けているが、今回は状況が違い、設置は難しい。仮橋の取扱いについては現在転回所としており、新たな転回所が設置されるまでは継続して使用せざるを得ないが、あくまでも仮橋なので、長期での使用は考えていない。

平成 23 年度以降の道路パトロールについて、通常道路パトロールと同様に行う。週 3 回を予定しているが検討を進める。路上に落石が発見された場合は原因を確認し、安全が確認されなければ通行止めを実施することもある。

網走南部森林管理署：カムイワッカ湯の沢の利用のあり方については別途協議会で議論されているが、当署の考え方としては現地の安全対策が十分に行われることが重要と考えている。具体的には平成 23 年度以降、各所の利用形態が変化することから、従来通りの利用ができないと考えている。仮に現行の対策の中で行われている監視員の配置、現地の安全確認で問題ない場合は現行通りの 1 の滝までの利用はできるのではないかと考えている。土地の管理上、貸し借りをした時の管理責任は双方に発生するので、対応は慎重にならざるを得ない。監視や人の出入りの管理が整ったときは 1 の滝まで利用できるのではないか。現行では 70 日間という期間を設置した中での対応だが、期間が延びたときは監視員の配置方法など新たな判断が求められるので、関係機関と協議の必要がある。

北海道警察北見方面本部：現在は落石防止工事に伴う規制だが、来年度は工事が終了するので、安全性など十分確認し、交通量など検討して来年の交通規制の必要性について判断したい。期間、どのような車両を規制するののかも含めて検討する予定。来年度以降の考え方については、観光客の人数の問題、落石や自然環境の問題もあるので、協議会などで道路の安全性を毎年考えて行かなくてはならない。

手続の方法については協議会の方から斜里警察署に要望、要請の書類を提出する形になるだろう。調整をはかっていかなければならないので、最低でも 3 ヶ月前には書類を提出してもらいたい。

知床自然保護協会：資料 5 の前書きから言えば、マイカー規制を行うという前提からの議論でよろしいか。

環境省：現状でマイカー規制を行わないと混雑が予想されるため、マイカー規制を行う前

提として考えたい。

知床自然保護協会：カムイワッカから知床大橋まで工事を行うとした場合、工事費用の試算は30億円で間違いないか。転回所はシャトルバスの転回所ということだが、規制期間外に一般車両も利用できるのか。駐車スペースの整備は難しいということは、駐車スペースはカムイワッカから手前に事実上無くなることになるが、規制期間外に一般解放されても駐車スペースは整備しないのか。

北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部：カムイワッカから知床大橋まで約1kmの落石防止工事を行った場合の費用は30億円とう試算が出ている。中間付近に硫黄山登山口があるが、カムイワッカから硫黄山登山口までが落石の危険性が高く、その区間で30億円の7~8割が工事費として要すると試算している。

転回所の設置については現在転回所として設置されている仮橋の代替え機能を確保しようという考え方。カムイワッカからは手前側になるが、地形条件で設置できる場所とできない場所があるので、関係機関と具体的な協議を進めていきたいと考えている。停車帯・駐車場については、本件の場合に道路管理者が整備することは難しいことを理解していただきたい。地域の要望もあるので、検討はできるが設置できるとは言えない。

転回所はバスが転回できるスペースで整備するため、一般車両でも十分なスペースとなる。

知床自然保護協会：転回所は、規制期間外一般車両は自由に使えるということによろしいか。

北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部：利用が可能な状態と思われるので、利用してかまわないだろう。

観光協会・温泉旅館共同組合（上野）：規制区間以外は相当数の駐車車両が出ることが予想されるが、そのときバスが転回できるスペースが確保されているのか。

北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部：駐車スペースと停車スペースの設置は現段階では難しい。車両の転回場所はいくつでも転回所なので、そのスペースに駐車されるとバスは転回できなくなる。利用のマナーも周知する必要がある。

観光協会・温泉旅館共同組合（上野）：道路の幅員について、既存の道路は3種5級となっているが、道路の幅員の中で駐車が行われた場合、最低でもバスが通行できるスペースはあるのか。

北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部：3種5級は基本的に一車線。車両が交差するのは難しい。その状態を何kmも続けるのは難しいので、要所要所に待避所を設置している。待避所を利用して通行しており、現在シャトルバスも待避所で交差し、時間調整をして運行している状況。

観光協会・温泉旅館共同組合（上野）：基本的にはこの道路基準では待避所以外で駐車されるとバスは運行できなくなるということか。

北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部：広い場所以外では交差に支障があり、バス

の運行は難しいと思われる。

知床財団：警察は道路の安全性を行う立場とのことだが、規制期間以外は安全性を感知しないのか。例えば規制期間以外に路上駐車が発生するようなことには感知しないのかどうか。

北海道警察北見方面本部：警察の仕事の内容は安全の確保であるので、その都度パトロールし、規制期間を過ぎても必要性に応じて安全性を確認する。

ウトロ自治会：平成 14 年までは 23 日間の規制であったが、工事を行う前に工事終了後は平成 14 年の形に戻してほしいということが議論されたのではなかったか。マイカー規制の、日数・期間はいつ決めるのか。

環境省：本日の状況で日数を決められるとは考えていない。工事終了後に実際に車両通行に対して安全なのかどうか、どの程度の規制が必要なのかを調査して、そこからのスタートだと考えている。

ウトロ自治会：工事終了後というのは何月か。

北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部：今年度の工事はマイカー規制後 11 月いっぱいまでの予定。

環境省：工事終了の目途が立っている時点で調査を行いたい。道警に確認したところ 6 月に調査を行う予定。平成 23 年度に規制期間を 23 日間にするかどうかだが、現状、以前、これからと状況が違うので、23 日間というのは参考にはするが、スタートにはならないだろう。皆様の助言を頂きながら検討していきたい。

知床民宿協会：平成 23 年度以降の期間の取り決めはこの協議会で決定するのか、別の協議会を設けるのか。

斜里町：基本はこの協議会だが、検討事項が多くなるとその都度この協議会を開くのが難しくなるので、事務局か事務局+ での協議を行うのではないか。

知床民宿協会：部会のようなもので検討してはどうか。

環境省：部会の招集の仕方は事務局で話し合って決めたいと思う。

斜里町：ハード面、ソフト面課題が多いが、警察の意見を聞きながら検討を行いたい。

(7) 議題 6 . その他

環境省：知床五湖が来年度から利用調整地区となり、知床五湖利用のあり方協議会で議論を進めている。知床五湖の利用のシステムが変わり、アクセス方法も変わってくる。幌別から先の知床五湖を含む地域の渋滞対策は、知床五湖の協議会と情報共有をしながら進めていきたい。

斜里町：閉会挨拶

12:05 協議会終了